



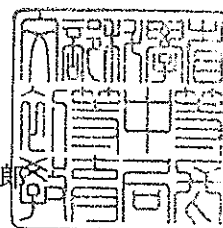
26文科初第1495号

平成27年3月31日

各都道府県教育委員会教育長
 各指定都市教育委員会教育長
 各都道府県知事
 各指定都市市長 殿
 各国公立大学長
 各国公立短期大学長
 各国公立高等専門学校長

文部科学省初等中等教育局長

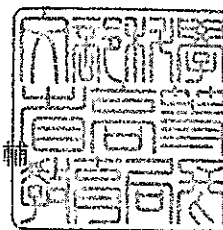
小松親次郎



(印影印刷)

文部科学省高等教育局長

吉田大輔



(印影印刷)

英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について（通知）

日頃より、英語教育の充実・推進に御尽力いただき、ありがとうございます。

今日、グローバル化が急速に進展する中で、英語によるコミュニケーションは、仕事や日常生活など生涯にわたる様々な場面で必要とされ、使用する機会が格段に増えることが想定されます。

そのため、今まで以上にその能力の向上が課題となっており、生徒学生が生涯にわたり主体的に英語学習に取り組む態度を育成するとともに、入学から卒業に至るまで、「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能（以下「4技能」という。）について、初等中等教育から高等教育を通じた育成とそのための総合的な評価が行われることが重要です。

このような観点から、第2期「教育振興基本計画」（平成25年6月14日閣議決定）では、英語の資格・検定試験関係団体と連携した生徒の英語の4技能に係る把握・検証による戦

略的な英語教育改善の取組支援を行うこととしています。また、平成 26 年 9 月に出された文部科学省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告においては、生徒学生の英語の 4 技能の評価の結果を教員の指導改善や生徒学生の英語力向上に生かすとともに、学校等が入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）等との整合性を図ることを前提に、入学者選抜に英語の資格・検定試験を活用することなどが提言されました。さらに、学校、テスト理論等の専門家、資格・検定試験の関係団体等からなる協議会を設置し、同協議会において、英語の 4 技能を評価する資格・検定試験を適切かつ効果的に活用されるような情報提供や指針づくり等を行うべき旨の提言がなされました。

これらを踏まえ、文部科学省では、生涯にわたる英語学習を通じた英語力向上のため、学校関係者、専門家、英語の資格・検定試験関係団体、経済団体等からなる「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」（以下、「連絡協議会」という。）を平成 26 年 11 月に設置し、英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について検討・協議の場を設けてきました。このたび、「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針」（以下「行動指針」という。）（別添 1）が連絡協議会において決定されましたので、お知らせします。

本行動指針は、生徒学生の 4 技能の総合的な育成及び評価の観点から、英語力の評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用の在り方、有効性及び留意すべき点について協議会として具体的な指針を申し合わせ、各中学校・中等教育学校・高等学校・高等専門学校・短期大学・大学における英語の 4 技能を評価する資格・検定試験活用を奨励するものです。

については、生徒学生の 4 技能の総合的な育成及び評価を行うに当たり、英語 4 技能の資格・検定試験を御活用いただくために、それぞれが設置または所轄する学校及び域内の市町村教育委員会に対して、本行動指針の趣旨や内容について周知いただきますようお願いいたします。また、各学校におかれましては、教職員に対しても、様々な機会や方法を通じて周知いただくよう御協力をお願いします。

<別添資料>

（別添 1）英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針

（別添 2）英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会及び作業部会設置要項

（別添 3）主な英語の資格・検定試験に関する情報一覧（平成 27 年 3 月 17 日現在）

なお、別添 3 は、第 2 回 英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会 配布資料からダウンロードができますので、御活用ください。

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afieldfile/2015/03/25/1356121_03.pdf

(別添 4) 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針の概要

(別添 5) 英語 4 技能試験情報ウェブサイト

<http://4skills.eiken.or.jp/>

<参考>

○英語教育に関する有識者会議について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/

○英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/index.htm

(連絡先)

初等中等教育局国際教育課

外国語教育推進室企画調整係

電話：03-6734-3787 (直通)

03-5253-4111 (内線 3785)

E-mail : gaikokugo@mext.go.jp

平成 27 年 3 月 17 日

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針

英語力評価及び入学者選抜における英語の
資格・検定試験に関する連絡協議会決定

1. 基本方針

グローバル化が急速に進展する中で、英語を日常的に使用する機会は限られているが、英語によるコミュニケーション能力は、仕事や日常生活など、生涯にわたる様々な場面で必要とされる機会が格段に増えることが想定され、今まで以上にその能力の向上が課題となっている。

このような英語力向上のため、生徒学生が生涯にわたり主体的に英語学習に取り組む態度を育成するとともに、英語力については、入学者選抜や入学から卒業に至るまで、「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能(以下、「4 技能」という。)の初等中等教育から高等教育を通じた総合的な評価が行われることが重要である。

また、海外の主要大学では、4 技能を評価する資格・検定試験による一定レベルの英語力の保証が求められることなども踏まえ、生徒学生に進路・留学・その後のキャリアなど将来の英語使用の具体的なイメージを持たせるよう留意しつつ、4 技能の総合的な育成及び評価が行われることが急務である。

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験に関する連絡協議会(以下、「連絡協議会」という。)は、生徒学生の 4 技能の総合的な育成及び評価の観点から、英語力の評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用の在り方、有効性及び留意すべき点について協議会として具体的な指針を申し合わせ、各学校及び各団体における英語 4 技能の資格・検定試験活用を奨励する。

2. 資格・検定試験の活用促進において重視すべき事項(例)

各中学校・中等教育学校・高等学校・高等専門学校・短期大学・大学(以下、「各学校」という)及び資格・検定試験の関係団体は、以下のような事項を踏まえつつ、英語力評価及び入学者選抜における英語 4 技能の資格・検定試験の活用促進を図ることとする。

(1) 資格・検定試験の有効性を踏まえた活用

〔学校関係者〕

- 各学校は、生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、効果的に4技能の資格・検定試験を活用する。あわせて、実践的な英語の使用場を増やすような活動の充実に努める。
- 各学校は、資格・検定試験活用の有効性を踏まえつつ、生徒学生の英語力を向上させるため、4技能をバランスよく測ることができる効果的な資格・検定試験を活用する。

(資格・検定試験の有効性に関する観点(例))

- ・ 英語の4技能の総合的な測定を行うこと
 - ・ 生徒学生の英語学習の目的、英語力、継続的な英語学習に適合した資格・検定試験を活用することなど試験の一貫性を確保すること
 - ・ 生徒学生が主体的に学習する態度・姿勢を身に付ける観点から、英語学習への動機付けにつなげる一つ的手段として活用すること
 - ・ 授業で活用した資格・検定試験の結果が学校に提供され教員の指導改善の参考となること
 - ・ 教員及び教員志望者の英語力向上の指針として活用すること 等
- 各学校における英語の資格・検定試験の活用においては、学習指導要領を踏まえた英語教育との親和性を踏まえつつ、コミュニケーション能力の育成に必要な4技能をバランスよく伸ばすことができるようにする。

学校での授業等における活用については、生徒学生の4技能の英語力、学習状況や指導状況などを把握し、それらの関係性などの分析結果を、教員の指導改善や生徒の英語力の向上に生かすよう努める。

そのため、学校が日常的に行う評価や定期試験等に加え、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る一つの客観的な指標として効果的に活用する。
 - 大学、短期大学、高等学校及び高等専門学校においては、それぞれの教育理念・内容等に応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）等を踏まえた入学者選抜や入学から卒業に至るまでの生徒学生の英語力向上のために、4技能を測定する資格・検定試験の活用を図る。

【英語 4 技能資格・検定試験関係団体】

- 英語の資格・検定試験関係団体は、資格・検定試験の活用促進及び客観的な質保証を図る観点から、4 技能を測定する試験としての有効性や課題への対応に配慮した情報発信等を積極的に行うことに努める。
- 英語の資格・検定試験関係団体は、上述した 4 技能の資格・検定試験を活用する各学校の取組を、積極的に支援するように努めるとともに先進的な取組などの情報発信を積極的に行うことが期待される。

(2) 英語力評価における資格・検定試験の妥当性等について

【学校関係者】

- 各学校は、英語の資格・検定試験の活用にあたって、それらの妥当性、信頼性等に留意して具体的な活用方法等を明らかにする。また、資格・検定試験を活用して得られる情報の費用対効果を考慮する。
 - ・妥当性：資格・検定試験が各学校において把握したい能力を適切に測定しているか。
また、その測定値が各学校において適切に活用されているか。
 - ・信頼性：各資格・検定において、各回の試験結果が一貫するよう明確な評価規準・方法などが提示されるなど、精確性が担保されているか。
 - ・波及効果：資格・検定試験を活用することによって生徒学生に対してどのような効果や課題をもたらすものであるか。
 - ・実用性：資格・検定試験の費用なども含め、どのくらい実用性があるか。
 - ・真正性：資格・検定試験が、生徒学生の実践的な英語使用場面をどれだけ反映しているか。等

【英語 4 技能資格・検定試験関係団体】

- 英語の資格・検定試験関係団体においては、各学校が各資格・検定試験の妥当性・信頼性等を検討するに当たり必要な情報（各資格・検定試験の目的、出題意図、難易度、目標言語使用領域、出題意図、問題の作成過程、実施方法、試験結果の評価規準、採点手続、結果の利用法、レベルや学校段階など対象ごとで測定しようとする能力の明確化、基準集団、検証状況、世界的な参照基準との関係性等）を明示することに努める。また、各資格・検定試験が測定しようとする能力については、例えば、大学で求める英語力として、英語で論理的、批判的に思考し、表現する力であることをより明確にするよう努める。

また、資格・検定試験の結果を学校にフィードバック（例：スコア返却の際の助言など）する際にも当該試験結果が適切に解釈されるよう十分に配慮し、教育的効果が上がるように努める。

あわせて、それぞれの妥当性等を実証する調査方法、分析結果等の情報提供に努める。

- 英語の資格・検定試験関係団体においては、各資格・検定試験の尺度得点の検証状況や結果の公開に努めるとともに、世界的な参照基準との関係付けなどを変更する場合は、生徒学生、学校等への影響などを鑑み、その内容、理由、背景資料などを毎年年度末を目途に本協議会に提供するとともに、迅速かつ適切に各学校への情報提供に努める。

（３）多様な生徒学生の能力への適合性

【学校関係者】

- 各学校において英語の資格・検定試験を活用する際は、多様な生徒学生の英語力及び学習の目的を十分踏まえた英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実を図るとともに、生徒学生の学習意欲の向上につなげる。
- 中学校・高等学校については、第２期教育振興基本計画に設定されている英語力の目標（中学校卒業段階：英検３級程度以上、高等学校卒業段階：英検準２級程度～２級程度以上を達成した中高生の割合５０％）だけでなく、生徒の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検２級から準１級、TOEFL iBT60点前後以上等の目標を設定し、生徒の多様な英語力や学習状況の把握・分析・改善を行う。
- 授業活用の際、資格・検定試験の結果は生徒学生に求められる英語力及び教育活動の一側面に関するものであることに留意し、効果的な改善を図る取組を行うこととする。

【英語４技能資格・検定試験関係団体】

- 英語の資格・検定試験関係団体においては、多様な生徒学生の英語学習のニーズや英語力を踏まえ、目的・難易度・作問の妥当性や客観性といった点を含め、各資格・検定試験によって測られる能力の範囲を可能な限り明確にするとともに、受験環境、実施場所、実施時期、受験費用、公平性の担保等に関する情報提供等を積極的に行うよう努める。

(4) 入学者選抜における妥当な活用方法等

【学校関係者】

- 各学校において資格・検定試験の成果を活用する際は、具体的な活用方法(例えば、入学者選抜において、当該資格・検定試験の結果を用いる場合の出願要件、みなし満点や点数加算などの得点の換算の方法等)を明確にする。

【英語4技能資格・検定試験関係団体】

- 各学校が資格・検定試験を活用するに当たり、生徒学生の英語力について、適切な評価が行われるよう、当該試験の結果の確認方法、試験間の比較に関する情報等の提供を積極的に行うよう努める。また、生徒学生の英語力の現状及び学習の目的を踏まえた資格・検定試験の開発、活用の在り方、世界的な参照基準などの関係性に関する更なる検証が期待される。

(5) 生徒学生が受験しやすい環境への配慮

【学校関係者】

- 学校等は、多様な資格・検定試験を精査し、その学校において習得されることが期待されている英語能力を測定するのに適切なものを選択する。
- 学校等は、資格・検定試験関係団体が公表する情報に基づき、生徒学生に対し、資格・検定試験の目的、基準集団、難易度、目標言語使用領域、出題意図、受験料、受験場所等についての正確な情報を提供する。
- 学校等のニーズや生徒学生の受験機会などの状況等を踏まえつつ、公平性・公正性を保った上で、受験しやすいよう学校施設等を提供して実施することが期待される。

【英語4技能資格・検定試験関係団体】

- 資格・検定試験関係団体は、各学校、学校関係団体等が試験を行うに当たり、その目的を踏まえながら受験のしやすさ（経済的状況に配慮した受験料、地域バランスに配慮した実施体制、受験回数等）に可能な限り配慮する。特に、生徒学生を対象とした資格・検定試験においては、受験料の減額・補助・助成など支援制度等についても考慮することが望まれる。

- 生徒学生を対象とした資格・検定試験においては、学校等のニーズや生徒学生の受験機会などの状況等を踏まえつつ、公平性・公正性を保った上で、受験しやすい会場として学校や民間教育施設等を活用して実施することが期待される。

(6) 適正・公正な試験実施体制（試験監督、情報管理等）

【英語4技能資格・検定試験関係団体】

- 資格・検定試験関係団体は適正かつ公正で透明性の高い試験を実施するため、試験実施体制、受験手続（本人確認、不正行為の防止策を含む）等について、分かりやすく公開することが求められる。また、これらについて学校等関係者の間で共通理解を図ることに努める。
- 公正性の観点から、試験部門と教育部門の両方を有する資格・検定試験関係団体は、部門間の情報管理を行うことが求められる。

(7) 国際的な通用性

【学校関係者】

- 生徒学生の進路・留学・その後のキャリア等のニーズに応じて、資格・検定試験関係団体が公表する情報に基づき、適切な資格・検定試験を活用する。

【英語4技能資格・検定試験関係団体】

- 資格・検定試験関係団体は、留学の際に当該資格・検定試験を活用できる海外の学校等における活用状況、外国における受験者数など、試験の国際的な通用性に関する情報提供を積極的に行う。また、日本で開発・実施されている試験については、海外でも活用されるように海外の学校や関係団体へ働きかけを行うことに努める。

（国際的な通用性に関する情報（例））

- ・ 留学に活用できる大学
- ・ 海外での利用状況・利用者数・主な利用地域
- ・ 海外の資格・検定試験関係団体との連携状況

(8) その他

- 各学校関係団体は、団体等に参加する学校、生徒学生への周知を図るとともに、学校等に周知を図る際、この「行動指針」を添付し、その趣旨の理解を図ることに努める。

英語の各資格・検定試験関係団体は、各団体及び関係者等に周知を図り、その趣旨の理解を図ることに努める。

- 英語４技能の試験を行う資格・検定試験関係団体及び学校・学校関係団体は、協議等を通じて受験料の引下げと試験地域の拡大に努める。
- 本協議会において、英語４技能の資格・検定試験の活用に関する情報提供、英語問題の調査・分析等の取組について、継続して協力することに努める。

【別添】今後、学校及び資格・試験団体において取組が期待される取組及び検討課題

【英語 4 技能資格・検定試験関係団体】

- 英語の資格・検定試験関係団体は、受験者、及び試験を活用する学校、関係団体などに試験の目的や実施方法などが適切に理解されるよう試験の手引きや解説書などを作成、提供(資格・検定試験の目的、内容、基準集団、標準化の時期や方法などの背景、実施方法・手続、結果の利用法、実施者に求められる資格、経験やトレーニングなど)
- 各学校への普及活動や情報管理等に関する倫理規定の策定

【学校と英語 4 技能資格・検定試験関係団体との連携】

- 英語の資格・検定試験を効果的に活用した授業活動、入学者選抜における先進的な取組の実施・情報発信
- 各資格・検定試験で 4 技能をバランスよく測定する良問の検証・結果の提供
- 受験者から了承の上で、学校が入学者選抜における確認のために各資格・検定試験関係団体から試験結果を得られる仕組みの検討
- 不正防止のための情報共有及び防止策の検討

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する連絡協議会の設置について

平成26年11月25日
初等中等教育局長決定
高等教育局長決定

1. 趣旨

生涯にわたる英語学習を通じた英語力向上のため、「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能（以下、4技能という。）の評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について検討・協議を行う、学校関係者、専門家、英語の資格・検定団体、経済団体等からなる「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」（以下、「連絡協議会」という。）を設置する。

2. 役割

- (1) 学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について調査し、検討・協議を行うこと。
- (2) 学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について関係団体間の必要な申合せを行うこと。
- (3) 学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用に関し、関係団体等と必要な調整を行うこと。
- (4) その他、上記に関係する事項を取り扱うこと。

3. 検討事項

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関し、次の事項を検討する。

- ・英語の4技能の評価及び入学者選抜における改善の方策
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する適切かつ効果的な情報提供の在り方
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する指針の検討・策定
- ・その他、上記の実施に当たり必要な事項

4. 連絡協議会の構成

別紙のとおりとする。

5. 座長

- ・会議に、座長を置く。座長は事務局が委嘱する。
- ・座長は、連絡協議会の事務を掌理する。
- ・座長に事故があるとき等には、連絡協議会に属する委員等のうちから座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

6. 作業部会

連絡協議会には、専門事項を調査・検討するため、作業部会を置くことができる。

7. 任期

平成26年11月25日～平成27年3月31日とする。

8. その他

- ・本会議に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において、高等教育局大学振興課の協力を得て処理する。
- ・その他会議の運営に関する事項は、必要に応じて座長に諮って定める。

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する連絡協議会委員

【50 音順】

青山 智恵	ケンブリッジ大学英語検定機構日本支部長
荒井 克弘	独立行政法人大学入試センター試験・研究統括官
安藤 益代	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）IP 事業本部長
石鍋 浩	足立区立蒲原中学校校長
梅澤 直臣	株式会社グローバル・コミュニケーション&テストティング取締役
圓月 勝博	同志社大学文学部教授・学部長、一般社団法人日本私立大学連盟教育研究委員会委員
大塚 雄作	独立行政法人大学入試センター試験・研究副統括官
奥田 吾朗	大阪国際大学短期大学部理事長、日本私立短期大学協会副会長
尾関 直子	明治大学国際日本学部教授
清原 正義	公立大学法人兵庫県立大学理事長兼学長、一般社団法人公立大学協会副会長
日下部 治	独立行政法人国立高等専門学校機構 茨城工業高等専門学校校長
塩崎 修健	公益財団法人日本英語検定協会教育事業部部長代理
島村 元紹	島村楽器株式会社代表取締役会長、日本商工会議所教育専門委員長
新庄 恵子	港区立高陵中学校校長、全日本中学校長会事業部長
高橋 基之	東京都立目黒高等学校校長、全国高等学校長協会会長
◎多田 幸雄	株式会社双日総合研究所代表取締役社長、長崎大学経済学部客員教授
田原 正夫	公立大学法人首都大学東京 東京都立産業技術高等専門学校校長 全国公立高等専門学校協会会長
内藤 裕紀	株式会社ドリコム代表取締役社長、一般社団法人新経済連盟教育改革 PT リーダー
中村 慶久	岩手県立大学盛岡短期大学部学長、全国公立短期大学協会副会長
根本 斉	国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部 TOEFL 事業部長
平方 邦行	工学院大学附属中学校・高等学校校長、日本私立中学高等学校連合会常任理事

松本 茂	立教大学グローバル教育センター長
三木谷 浩史	楽天株式会社代表取締役会長兼社長
三島 良直	国立大学法人東京工業大学学長、一般社団法人国立大学協会入試委員会委員
三宅 龍哉	富士通株式会社常務理事、一般社団法人日本経済団体連合会教育問題委員会企画部会長
村田 圭治	近畿大学工業高等専門学校校長、日本私立高等専門学校協会理事
安河内 哲也	一般財団法人実用英語推進機構代表理事
山崎 昌樹	株式会社ベネッセコーポレーション学校本部長
吉田 研作	上智大学言語教育研究センター教授
四方 ゆかり	グラクソ・スミスクライン株式会社取締役、公益社団法人経済同友会幹事・学校と経営者の交流活動推進委員会副委員長

座長◎

<オブザーバー>

○ 文部科学省

初等中等教育局 高校教育改革PT

初等中等教育局 児童生徒課

初等中等教育局 国際教育課

高等教育局 高等教育企画課

高等教育局 大学振興課

高等教育局 専門教育課

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する作業部会の設置について

平成 26 年 1 2 月 2 日
英語力評価及び入学者選抜における英語の
資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会

2. 趣旨

「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能（以下、4技能という。）の評価及び入学者選抜の改善及び英語の資格・検定試験の活用の在り方について、専門的・技術的見地から調査・検討を行うため、英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（以下、「連絡協議会」という。）の下に作業部会を設置する。

2. 役割

- （5）学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について専門的・技術的見地から調査し、検討を行うこと。
- （6）その他、上記に関係する事項を取り扱うこと。

3. 検討事項

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関し、次の事項の調査・検討を行い、連絡協議会での検討を補完するものとする。

- ・英語の4技能の評価及び入学者選抜における改善の方策
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する適切かつ効果的な情報提供の在り方
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する指針の検討・策定
- ・その他、上記の実施に当たり必要な事項

4. 作業部会の構成

別紙のとおりとする。

5. 主査

- ・会議に、主査を置く。主査は事務局が委嘱する。
- ・主査は、作業部会の事務を掌理する。
- ・主査に事故があるとき等には、作業部会に属する委員等のうちから主査があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

6. 会議の運営

会議は、委員自らの識見に基づく専門的な審議及び率直かつ自由闊達な意見交換の場を確保する必要があること、また、審議内容に個別利害に直結する事項に係る案件を含むことから、非公開で行い、検討結果を連絡協議会に報告する。

7. 設置期間

平成26年12月2日～平成27年3月31日とする。

8. その他

- ・本会議に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において、高等教育局大学振興課の協力を得て処理する。
- ・その他会議の運営に関する事項は、必要に応じて主査に諮って定める。

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する作業部会委員

【50 音順】

青山 智恵	ケンブリッジ大学英語検定機構日本支部長
石田 毅	サレジオ工業高等専門学校一般教育科長
石橋 敬太郎	岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科長
梅澤 直臣	株式会社グローバル・コミュニケーション&テストング取締役
大津 起夫	独立行政法人大学入試センター研究開発部長
大塚 雄作	独立行政法人大学入試センター試験・研究副統括官
沖 清豪	早稲田大学文学学術院教授、一般社団法人日本私立大学連盟教育研究委員会委員
小田切 陽一	公立大学法人山梨県立大学理事
川嶋 太津夫	国立大学法人大阪大学未来戦略機構教授、一般社団法人国立大学協会入試委員会専門委員
日下部 治	独立行政法人国立高等専門学校機構茨城工業高等専門学校校長
黒岩 裕	青山学院女子短期大学現代教養学科教授・国際専攻主任
小林 真記	神田外語大学外国語学部英米語学科准教授
込山 智之	株式会社ベネッセコーポレーション高校事業部 GTEC 事業推進課長
佐々木 正文	東京都立町田高等学校校長、全国高等学校長協会監事
竹内 理	関西大学外国語学部教授・学部長
仲村 圭太	公益財団法人日本英語検定協会制作部研究開発課主任
永井 誠	公立大学法人首都大学東京東京都立産業技術高等専門学校教授
根岸 雅史	国立大学法人東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
根本 斉	国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部 TOEFL 事業部長
浜野 能男	普連土学園中学校・高等学校校長
福井 正仁	港区立青山中学校校長、全日本中学校長会教育研究部副部長

松本 茂	立教大学グローバル教育センター長
三橋 峰夫	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）R&D 主席研究員
森 博英	日本大学経済学部教授
安河内 哲也	一般財団法人実用英語推進機構代表理事
◎吉田 研作	上智大学言語教育研究センター教授

主査◎

<オブザーバー>

○ 文部科学省

初等中等教育局 高校教育改革PT

初等中等教育局 児童生徒課

初等中等教育局 国際教育課

高等教育局 高等教育企画課

高等教育局 大学振興課

高等教育局 専門教育課

試験名・団体名		目的・ねらい		活用について	
試験名	実施主体	主な目的	出題意図	活用例	国際通用性 ①試験が実施されている国数 ②多く活用されている地域・大学 ③海外の資格・検定試験団体との連携情報
Cambridge English ケンブリッジ英検	ケンブリッジ大学英語検定機構 (英国ケンブリッジ大学の一部門であり、英語の学習や指導に関する資格試験を提供する評価機関。非営利組織)	英語圏における日常生活に必要なとされる実践的な英語力があるかを評価する	＜思考力・判断力・表現力＞ 「話す」テストでは、イラストや写真について受験者自らの経験や知識を活用しながら、制限時間内で論理的に意見をまとめる ＜2技能統合型＞ (ペアで対面式ということで)相手の意見を「聞く力」も必要。論理的に首尾一貫性のある会話をしながら、自分の意見を提案したり、建設的に相手の同意や意見を引き出しつつ、二人で結論を導くスキルをみる。積極的に会話を進めようとしているか等、リアルなコミュニケーションに必要なスキルが試される。 ・サンプル問題URL (PET for Schools/レベルB1): http://www.cambridgeenglish.org/exams/preliminary-for-schools/how-to-prepare/	・アイルランド、豪州の査証申請に活用可能 ・大学・企業・省庁など20,000を超える世界中の機関により、英語力の証明としてケンブリッジ大学英語検定機構の試験は認定、活用されている	①世界130か国で実施 ②主に英国、欧州、次にオーストラリア、ニュージーランド、カナダ ③CaMLA（ケンブリッジ・ミシガンテスト） 米国ミシガン大学と提携、米国英語に対応。OET(医療専門英語試験) 豪州ボックスヒル・インスティテュートと提携、医療従事者用英語に対応
実用英語技能検定	公益財団法人 日本英語検定協会	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	＜思考力・判断力・表現力＞ 社会性のあるトピックに関する質問に対して技能としての英語のみならず、受験者が日頃の生活や学習の中で身に付けた知識をも活用して意見を述べ、その根拠を具体的な根拠を元に議論を展開することが求められる ＜技能統合型＞ カードに書かれた英文を読み、内容に関する質問を聞いたうえで、英語で意見を述べる ＜情報活用能力＞ カードに書かれたイラスト等の非言語情報を整理・理解し、時系列や聞き手を意識しながら説明をする サンプル問題URL: https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/	・入試における活用(2014年度調査延べ数) 大学419校、短大207校、高専9校、高校758校、中学76校 ※合計1477校 ・単位認定による活用(2014年度調査延べ数) 大学252校、短大63校、高専43校、高校688校 ※合計1,046校 ・海外における活用は右記②参照	①約世界50か国(公開会場が3か所、準会場が130か所)で実施 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等、約370の海外の大学等、そしてオーストラリア7つの州のうち5つの州の留学生受け入れ可能な全州立高校約570校において、留学の際の語学力証明として認定されている ③Academic Forum on English Language Testing in Asiaにて、6地域7団体とアジアにおける英語テストングの課題共有と質の向上を目的に連携。英国の独立研究機関CRELLAに英検の妥当性検証を連携して実行している
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人 進学基準研究機構(CEES)と共催	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	＜聞く＞学生生活での会話や講義からの出題で、課題解決に必要な情報を「聞く力」を測定 ＜話す＞会話応答力から自分の意見を述べる力まで幅広い「話す力」を測定 ＜読む＞サンプル問題学生生活で遭遇する情報や、講義内容などの出題で「読む力」を測定 ＜書く＞バリエーション豊かな出題で多角的に「書く力」を測定※資料を読み取り意見を書くなど2技能統合型の出題あり	GTEC CBTのスコアを入試に活用することが可能。 参考URL: http://www.benesse-gtec.com/cbt/about/list.html	①ELS Educational Servicesを通じての北米を中心とした大学進学を想定
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	＜聞く＞即応性、情報選択、要点理解など多角的に「聞く力」を測定 ＜話す＞リアルな場面設定で、音読から意見展開まで幅広い「話す力」を測定 ＜読む＞特に速読的な情報検索、概要把握する「読む力」を中心に測定 ＜書く＞与えられたテーマに対して自分の考えを自由記述することで「書く力」を測定	学校における技能別の指導検証のために活用することが可能。 GTEC for STUDENTSのスコアを入試に活用することも可能。 参考URL: http://gtec.for-students.jp/gtecmag/gtecmag.htm	
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、IDP(IELTS オーストラリア)、ケンブリッジ大学英語検定機構 (日本では公益財団法人 日本英語検定協会が事務局として実施運営・広報活動を実施)	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	＜批判的思考・論理性＞ ・提示されている論点に対して、批判的な視点をもって論証できるかどうかが問われる ・英語で論理的に意見を展開し、相手の理解が得られるように表現することが求められる ＜思考力・判断力・表現力＞ ・自身の経験や知識を基に、提示された課題に関係する事象や論拠を選択し、適切な表現をつかって効果的に英語で発信できるかどうか求められる ＜客観性・情報理解力＞ ・表やグラフ等で表された情報を理解し、客観的に英語で描写する力が求められる サンプル問題: http://takeielts.britishcouncil.org/prepare-test/free-practice-tests	【世界】世界145か国、約9,000の大学・企業・政府機関等で留学や移住の際の語学力証明として活用(右記参照) 【日本】・全旧帝大を含む全国主要50大学にて特別会場実施受験による留学促進として活用(一部変則方式) ・全国主要約50大学にて入学者選抜要件として活用 ・東大・ICU・都教委において語学力アセスメントとしての活用	①世界+140の国と地域で実施 ②世界で約9,000の機関(政府移民局、国境局等を含む)。EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドは特にIELTS志向が強いが、近年アメリカ合衆国での認知が高まり、現在3,000以上のアメリカの機関がIELTSを受け入れている
TEAP	公益財団法人 日本英語検定協会	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	＜思考力・判断力・表現力＞ アカデミックなトピックに対する4技能にわたる英語の運用能力を問うだけでなく、文章の構成や図表との関連を考えながら読み解いたり、受験者自身の知識を活用しながら論理的に意見を述べる・議論をする能力が求められる ＜技能統合型＞ 表・グラフを読み、その説明を聞きながら、関連する質問に解答する 英文と表・グラフを読み、内容に関するテーマに関して解答を書く ＜情報活用能力＞ 表・グラフ等の非言語情報と英文から得られる情報を統合して理解し、その内容を要約したうえで自分の意見をまとめて書く サンプル問題URL: http://www.eiken.or.jp/teap/construct/	上智大学、立教大学、関西学院大学、関西大学、立命館アジア太平洋大学、中央大学等への入試で活用。 また、一部入学直後、及び習熟度検証のためのプレースメントテストとして活用有。	③言語テストに関する英国の独立研究所(CRELLA)に検証を依頼し、これまで開発された国際的通用性の高いテストと同様の設計手法に基づき問題作成や分析等を行っている
TOEFL (TOEFL iBT)	Educational Testing Service(ETS) (日本では国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部がTOEFLテスト日本事務局として広報・周知活動を実施)	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	テスト問題は全てアカデミックな内容、かつ大学で英語で学業を行ううえで、学部・院生が頻繁に遂行しなければならない、学業成績にも重要となる言語使用タスクに基づいて問題を作成。 ＜思考力・判断力・情報分析力・表現力・2～3技能統合力＞ Speaking/Writingセクションにおいて、Integrated Taskという同時に複数の技能を測定する問題(インプットとアウトプットを同時に測定)が出題される (例)テキストを読み、関連する会話/講義を聞いて、問題に解答(話す・書く) サンプル問題(1) http://www.ets.org/jp/toefl/ibt/prepare/toefl_interactive_sampler (2) http://www.ets.org/toefl/ibt/prepare/quick_prep/	(海外)・9,000以上の海外大学・大学院、その他機関において主に入学選考基準として利用 ・オーストラリア査証申請に活用可能 ・医療機関や認可機関: 専門資格の認定に使用 (日本)・大学における入試優遇・単位認定(2012年のスコア利用状況のアンケートでは回答大学509校中219校が利用と回答) ・高校教員採用時の優遇事例(2012年のアンケート調査では35都道府県・政令都市教育委員会でスコア利用・優遇等の回答あり) ・外務省 国際機関人事センター派遣制度の選考基準 ・人事院 国家公務員採用総合職試験 等	①130か国以上、9,000以上の大学や機関で活用 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)での入学選考基準に活用。非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)での入学選考基準に活用
TOEFL Junior Comprehensive	Educational Testing Service(ETS) (日本では株式会社グローバル・コミュニケーション&テストング(CG&T)が事務局として実施運営・広報・普及活動を実施)	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する	＜思考力・判断力・表現力＞【独立型】Listening/Reading 課題文の情報を使い、最も論理的に関連のある(しかし文中に明記されていない)内容を選択する問題などがあり、単に英文を理解するだけでない、思考力・判断力が求められる https://toefljr.caltesting.org/sampleQuestions/TOEFLJr/r-dodder.html 【統合型】 Listen-Speak/Listen Write 論じられている内容を正しく把握し、要約し、決められた時間内で発信。論じられているアカデミックな内容を把握し、要約を行い、文章にて発信する問題など https://toefljr.caltesting.org/sampleQuestions/TOEFLJr/w-maunakea.html	2015年2月に実施したアンケート調査では、18大学において4技能のTOEFL Junior Comprehensiveを入試の優遇条件として採用と回答。	
TOEICテスト	Educational Testing Service(ETS) (日本では(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が事務局として実施運営・普及・広報活動を実施)	一般からビジネスまで幅広い英語によるコミュニケーション能力(「聞く、読む」能力)を測定する。	＜聞く＞明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる、あるいは詳細が理解できる。 ＜読む＞文章の中の具体的な情報を理解できる、情報をもとに推測できる、複数の情報を関連付けることができる。 サンプル問題: http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/tests/sample01.html	採用学校803校中405校(大学・短大・高専)が入学試験に活用(H25年度実績)。企業における海外出張者選抜、昇進・昇格基準、大学における推薦入試・単位認定基準の指標として用いられているほか、英語研修や授業の効果測定、自己啓発の目安として幅広く活用	①TOEICプログラム(TOEICテスト・TOEIC Bridge・TOEIC S&W)は世界150か国、1万4千団体が活用。年間約700万人が受験(H25実績)
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	Educational Testing Service(ETS) (日本では(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が事務局として実施運営・普及・広報活動を実施)	国際的な職場環境において、効果的に英語でコミュニケーションするために必要な「話す、書く」能力を測定する。	＜話す＞ネイティブスピーカーや英語に堪能なノンネイティブスピーカーに理解しやすい言葉で話すことができる。日常、業務上必要なやりとりを適切に行うことができる。筋道の通った継続的なやりとりができる。 ＜書く＞適切な語彙・語句を使用し、文法的に正しい文を作成できる。情報、質問、指示などを伝える文章を作成できる。理由、根拠などを示しながら自分の考えを相手に伝える文章を作成することができる。 サンプル問題: http://www.toEIC.or.jp/sw/about/tests/sampletest.html	国家試験の通訳案内士試験でTOEICスコア840以上、TOEICスピーキングスコア150以上、TOEICライティングスコア160以上が英語筆記試験免除対象となっています。大学・企業・団体の発信力測定に活用	①TOEICプログラム(TOEICテスト・TOEIC Bridge・TOEIC S&W)は世界150か国、1万4千団体が活用。年間約700万人が受験(H25実績)

試験名	主な受験ターゲット層および試験のレベル					検定料・場所・回数		
	主な受験者層	受験人数	難易度（CEFRとの関係）	語彙数	目標言語使用領域	実施回数・会場数	受験料	受験料の減額・補助・助成の支援制度
Cambridge English ケンブリッジ英検	中学生 高校生 大学生 社会人	世界で年間250万人	CEFRレベル：A2-C2 （なお、A2未満のレベルについては、国際児童英検のスターターズがPre-A1を、ムーバーズがA2を測定）	A1（国際児童英検：スターターズ） 800語程度 A2（KET） 1,500語程度 B1（PET）3,000語程度 B2（FCE）5,000語程度 C1（CAE）6,500語程度 C2（CPE）7,000語程度 （English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウント）	複雑でない指示や公共放送を聞いてその要点を理解するなど、日常生活で遭遇する可能性のある言語	・日本では2～3回／年（年間実施回数は試験センターにより異なる） ・試験センターのある北海道、長野、東京、兵庫、岡山、福岡のほか、愛知、大阪、広島、鹿児島 の計10会場	【参考価格】2014年8月～2015年7月 KET(A2) 9,720円～ PET(B1)11,880円～ FCE(B2)19,980円～ CAE(C1)22,140円～ CPE(C2)25,380円～ ※実施する試験センターにより異なることあり	・学校団体での受験は、最少催行人数の規定や会場提供を条件に減額実施は可能（文部科学省の「英語教育関連事業に係る研究校・研修協力校を対象とした特別価格」を提供する試験センターは今年度原則15%程度の減額可能） ・問い合わせ先：ケンブリッジ大学英語検定機構 日本支部 e-mail: info@cambridgeenglish.or.jp
実用英語技能検定	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人	約235.5万人（H25実績）	CEFRレベル：A1-C1 C1⇒1級 B2⇒準1級 B1⇒2級 A2⇒準2級 A1⇒3級、4級、5級	[2級] 4,000語程度 （BNC<British National Corpus>）	[2級] 指導者を伴う言語使用・学習環境において遭遇する可能性の高い社会性のある内容（日常・アカデミック・ビジネス）に関する言語	・3回／年（6～7月、10～11月、1～2月） ・全国約17,400会場（公開会場230都市400会場、準会場、離島等を含む全国17,000会場）	・1級：8,400円 ・準1級：6,900円 ・2級：5,000円（4,600円） ・準2級：4,500円（4,100円） ・3級：3,200円（2,800円） ・4級：2,100円（1,600円） ・5級：2,000円（1,500円） ※括弧内は、準会場受験の場合	・英語担当教員専用特別検定料制度（教員特別検定料（税込）） 1級：4,000円（定価：8,400円）、準1級：3,000円（定価：6,900円） ・小学校教員対象 英検検定料助成（教員特別検定料（税込）） 1級：4,000円（定価：8,400円）、準1級：3,000円（定価：6,900円） 2級：2,500円（定価：5,000円） ・研究校／研修協力校に該当する学校に対する助成（特別検定料（税込）） 1級：5,000円（定価：8,400円）、準1級：4,000円（定価：6,900円） 2級：3,000円（定価：5,000円）、準2級：2,500円（定価：4,500円） 3級：2,000円（定価：3,200円）、4級：1,000円（定価：2,100円） 5級：1,000円（定価：2,000円） 問い合わせ：公益財団法人 日本英語検定協会 英検サービスセンター TEL：03-3266-6581
GTEC CBT	高校生 大学生	非公表	CEFRレベル：A2-C1	3,000語～6,000語程度 （タスクにより異なる）	大学生が経験する日常生活における言語や大学の講義などのアカデミックな言語	・実施回数は3回／年（H27予定） ・全国47都道府県・57会場（H26実績）	9,720円（税込）	
GTEC for STUDENTS	中学生 高校生	約73万人（H26実績）	CEFRレベル：A1-B2 Advanced=高校2年～3年 Basic=高校1年～2年 Core=中学2年～中学3年	Advanced：高校英語必修科目の教科書レベル Basic：中学3か年の教科書レベル Core：中学1～2年の教科書レベル ※上記に加えて、日常生活で頻出の重要語いも含む	高等学校や中学校の授業で学んだ英語を「実際に使う」場面を想定したジェネラルな言語	・検定日は7月・12月 ・学校会場	3,080円（税込） ※Speaking含む場合は、5,040円（税込）	文部科学省・英語教育強化地域拠点事業における拠点校、及び外部専門機関と連携した英語指導力向上事業における研修協力校においては、1,640円（税込）に減額補助。※Speakingテストは除く
IELTS	高校生 大学生 社会人	約3.1万人（H26年度実績） ※全世界では140カ国、約250万人（2014年度実績）	CEFRレベル：A2-C2	5,000～6,000語程度 （BNC<British National Corpus>）	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業した場合に遭遇する可能性のある言語	・35～40回／年（東京では年約30回実施。大阪、京都、名古屋、福岡では毎月実施） ・全国16都市に公開会場 ・特別会場として、全国約50の主要大学・教育機関においても実施	25,380円	・教員助成制度利用の場合、20,000円に減額で実施 ・問い合わせ先：教育事業部国際課 専用URL: http://www.eiken.or.jp/ielts/group/teacher/
TEAP	高校2年生以上	約1万人（H26年申込実績）	スコア→CEFR R 20～100⇒Below A2～B2 L 20～100⇒Below A2～B2 W 20～100⇒Below A2～B2 S 20～100⇒Below A2～B2	2,000～5,000語程度（タスクにより異なる） （BNC<British National Corpus>）	大学に入学後、指導・学習における場面で遭遇する可能性の高いアカデミックな内容に関する言語	・3回／年（2014年度）（7月、9月、12月） ・2015年度は全国11都市約30会場＋TEAP利用大学地区への新規会場設置予定	・RL:6000円 ・RLW:10,000円 ・RLSW: 15,000円	検討中
TOEFL （TOEFL iBT）	高校生 大学生 社会人	年間受験者数は非公表。ETSの発表では1964年のTOEFLテスト実施開始から累計3,000万人以上が受験。また日本においては、2000年10月のコンピュータ試験版（TOEFL CBT）導入以降、100万人以上が受験。	CEFRレベル：B1-C1	<読む> 3,000語で90.45%、5,000語で95.37% <聞く> 3,000語で96.22% をカバー （BNC/COCA word-family lists） <第1回連絡協議会資料より>	大学生生活や大学での授業等のアカデミックな環境にて使用される言語。TOEFL iBTのタスク・デザインの基礎となったtask statementsは、多くの学術分野で頻繁に英語で遂行する必要がある、かつ学業成績においても重要性が高いことが、北米の大学の教員・学生へのアンケート調査で確認されている。	・40～45回／年 ・87会場（テスト実施日により会場数は異なる）	・通常申込 US230 ^{ドル} （2015年3月現在） ・年により価格改定を行う場合有。改定の場合7月に改訂される ・受験料自体の表示はドル表示であるが、支払時に日本円表記となるオプションあり ・国により受験料は異なる：US165 ^{ドル} ～US300 ^{ドル}	・英語教員対象特別受験制度あり。学校教育法第1条に規定された小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校・高等専門学校の英語教員（常勤のみ）は19,500円で受験可能（2015年3月現在）
TOEFL Junior Comprehensive	中学生 高校生 大学生	非公表	CEFRレベル：A2～B2	3,000語程度 （98%の単語がセンター試験（2006年以降）に出現。グローバル・コミュニケーション＆テストイング独自調査（2014年））	社会・個人との関係構築・維持のためのコミュニケーション能力、学生生活や授業の情報を適切に把握・共有するための能力、アカデミックな内容を学ぶために必要な能力	・2～3回／年 ・現在、受験者数に応じて、47都道府県、110都市、170会場のCBT会場の準備が可能	公開テスト 9,500円（税込） 団体特別受験割引制度あり	学校内等で実施する団体受験については、団体割引価格：2015年12月までは特別価格¥6,640（税込）で提供 問い合わせ：03-6836-0125
TOEICテスト	高校生 大学生 社会人	国内年間約236万人が受験（H25年度実績）。 高校・大学・団体・企業3,400団体が活用（H25年度実績）。 ※全世界では150カ国	CEFRレベル：A1-C1	4,000語以上 （外部リサーチャーが独自に行った調査結果からの推計値）	日常生活から働く場面まで頻繁に使用されている言語	【公開テスト】 ・10回／年（受験地による） ・最大256会場（実施回による）	【公開テスト】 5,725円（税込） 【IPテスト（団体特別受験制度）】 4,155円（税込）	【公開テスト】・リポート受験割引：インターネット上でTOEIC公開テストの受験申込をすると、1年後のTOEIC公開テストを通常価格5,725円（税込）のところ、割引価格の5,092円（税込）で申込可能（団体一括受験申込の場合を除く） ・団体一括受験申込（賛助会員価格）4,645円（税込）<10名以上の一括申込み> 【IPテスト（団体特別受験制度）】・賛助会員価格 3,075円（税込）<10名以上の一括申込み>
TOEIC Speaking & Writing Tests （TOEIC S&Wテスト）	高校生 大学生 社会人	国内年間約1.5万人が受験（H25年度実績）。 高校・大学・団体・企業160団体が活用（H25年度実績）。 ※全世界では25カ国	CEFRレベル：A1-C1	N/A	日常生活から働く場面まで頻繁に使用されている言語	【公開テスト】 ・24回／年（受験地による） ・最大30会場（実施回による）	【公開テスト】 10,260円（税込） 【IPテスト（団体特別受験制度）】 9,050円（税込） ※IPテストではスピーキング／ライティング個別に受験の場合、各6,170円（税込）	【公開テスト】 ・団体一括受験申込（賛助会員価格）9,180円（税込）<5名以上の一括申込み> 【IPテスト（団体特別受験制度）】 ・賛助会員価格 7,970円（税込）<5名以上の一括申込み> ※IPテストではスピーキングテストのみ／ライティングテストのみを個別に受験する場合、それぞれ5,090円（税込）<各テスト5名以上の一括申込み>

	問題作成・実施方法・出題形式		
試験名	問題の作成過程	実施方法・試験時間	出題形式
Cambridge English ケンブリッジ英検	・ケンブリッジ大学英語検定機構の研究・検証部門に所属する多数の言語評価の専任研究員で言語学、教育、テスト理論の専門家が作成。さらに外部コンサルタントも多数作問者として問題作成チーム(各チーム5名程度)に加わる ・作問依頼→編集前会議→編集会議→(「読む」「聞く」)予備テスト、(「話す」「書く」)トライアルテスト→採点、分析(各セクション、タスク毎に難易度やコンテンツが正しく網羅されているか等をチェック)→アイテムを蓄積→実際のテスト問題作成→テスト問題印刷→各国の試験センターに発送 ・開発、印刷、採点など試験を実施する上記のプロセスは外部機関の英国規格協会よりISO9001:2008を取得。 ・年間以下の回数実施できる問題数を準備(2015年) KET/PET for schools:各 PB 13, CB 11 First for Schools: PB 11, CB 9 CAE: PB 23, CB 16 CPE: PB 8, CB 4 計119回	＜聞く＞ペーパー ＜話す＞面接 ＜読む＞ペーパー ＜書く＞ペーパー [試験時間] PET(CEFR: B1) 2時間12分、KET(CEFR: A2) 1時間50分 ＜話す＞以外はCB版テストあり。今後需要があればCB版テストに対応する試験センターを増やすことも可能	・レベルは、KET(A2)からCPE(C2)まで5段階。KET,PET,FCEは中高生対象の「フォー・スクールズ」シリーズあり ＜聞く＞全てのレベルでマークシートと記述の両形式で解答 ＜話す＞ペーパー面接。KET(約8分)～CPE(16分)と次第に増 ＜読む＞KET(A2)とPET(B1)のみマークシート形式。FCE(B2)以上はマークシートと記述の両形式で解答 ＜書く＞全てのレベルで記述式。語数がKET(25-35語)～CPE(280-320)へと次第に増
実用英語技能検定	・アイテムライター・スペルチェッカー・校閲者による原案作成と外部校閲者のフィードバックを元に検討を重ねて作成 ・難易度調整のために一部の問題を事前にプレテスト(予備調査)し、難易度や内容面で質の保証された問題を使用 ・年間3回の実施可能な問題数を準備	＜聞く＞ペーパー、CBT(PC) ＜話す＞対面式面接、CBT(PC) ＜読む＞ペーパー、CBT(PC) ＜書く＞ペーパー [試験時間] 2級(CEFR: B1) 1時間47分、準2級(CEFR: A2) 1時間36分	＜聞く・読む・書く＞【一次試験】 ・2級～5級は全てマークシート形式 ・1級・準1級はマークシート形式＋ライティングが記述形式 ＜話す＞【二次試験】 ・3級以上で面接方式
GTEC CBT	・海外のテスト理論専門研究機関に所属するアイテムライターが作成 ・IRT理論に基づくスコア算出のためフィールドテストを定期的の実施し、十分な品質の問題を作成 ・大学有識者等による出題内容・レベルの検証作業を実施	＜聞く＞CBT(PC) ＜話す＞CBT(PC) ＜読む＞CBT(PC) ＜書く＞CBT(PC) [試験時間] 2時間55分 4技能すべてコンピュータで実施	＜聞く＞クリック形式による選択式 ＜話す＞音声録音による発話式 ＜読む＞クリック形式による選択式 ＜書く＞キーボード入力による自由記述式
GTEC for STUDENTS	・海外のテスト理論専門研究機関に所属するアイテムライターが作成 ・IRT理論に基づくスコア算出のためフィールドテストを定期的の実施し、十分な品質の問題を作成 ・大学有識者、高校教員等による出題内容・レベルの検証作業を実施	＜聞く＞ペーパー ＜話す＞タブレット端末 ＜読む＞ペーパー ＜書く＞ペーパー [試験時間] 1時間55分	＜聞く＞マークシート方式 ＜話す＞音声録音による発話式 (※＜話す＞は、オプション) ＜読む＞マークシート方式 ＜書く＞自由記述式
IELTS	・ケンブリッジ大学英語検定機構と外部の言語学者やテストの専門家からなる委員会の責任により、①Material bank②Item writing ③Pre-editing④Editing⑤Pretest construction and Pretesting ⑥Pretest Review ⑦Standards Fixing and Grading ⑧Test Constructionという大きく8段階に分けられる過程で3年をかけて作成される。	＜聞く＞ペーパー(記述式) ＜話す＞面接(1対1) ＜読む＞ペーパー(記述式) ＜書く＞ペーパー(記述式) [試験時間] 約2時間59分	＜聞く、読む＞多肢選択&自由記述(設問による) ＜書く＞ペーパーへ自由記述 ＜話す＞1対1の面接方式(面接官は原則全員ネイティブ)
TEAP	・言語テストに関する独立研究所(GRELLA)に検証を依頼して作成したテスト設計に合わせて問題作成。 ・アイテムライター・スペルチェッカー・校閲者による原案作成とフィードバックを重ねて問題を作成する。 ・作成したアイテム用いてをプレテスト(調査目的のテスト)を行い、その結果を統計的に集計・分析し、内容的にも問題のないアイテムを最終的にテストセットに使用する。 ・年間3回の実施可能な問題数を準備。	＜聞く＞ペーパー ＜話す＞独自開発したSアプリを用いた面接 ＜読む＞ペーパー ＜書く＞ペーパー [試験時間] 3時間20分 ※2016年度よりTEAP CBT実施開始予定	＜聞く、読む＞多肢選択(マークシート)方式 ＜話す＞1対1の面接方式 ＜書く＞記述 ※＜聞く/読む>、＜聞く/読む/書く>でも受験可能
TOEFL (TOEFL iBT)	・問題作成・検証にはETS内部で10以上の過程を経て作成され、作成から運用までは6-18ヵ月を要する ・Assessment Specialistsと呼ばれるETSのテスト開発担当者が細かいガイドラインに従って問題作成を行う。例えば、問題文やレクチャーが「レベル的に適しているか」「事前知識を必要としない内容か」「問題を出題できる内容か」等を検証する。 http://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_ibt_research_insight.pdf ・Reading/Listeningセクションにおいて、実際の試験では採点されないサンプル問題が出題される。回収されたデータに応じて、Assessment Specialistsが実際の試験問題として出題できるかどうかの可否を判断する。	＜聞く＞CBT(PC) ＜話す＞CBT(PC) ＜読む＞CBT(PC) ＜書く＞CBT(PC) [試験時間] 約4時間 4技能ともコンピュータで受験 インターネットを通じて問題が配信される形式はComputer-based Test(CBT)であるが、ETSの名称はiBT(Internet-based Test)	＜聞く、読む＞多肢選択 ＜話す＞コンピュータへ録音 ＜書く＞コンピュータで文章を入力 ＜話す＞＜書く＞の答案データはインターネットを通じてETSから採点者へ送られ採点が行われる。
TOEFL Junior Comprehensive	ETSにて、Master's degree in TESOL, Applied Linguistics, Educationの経験者等を中心とした、Assessment Development Division, Reserch Division, Statistics Division等の担当部署が問題の作成、検証、統計処理等を行う。 年間、2～3回実施可能な問題数を準備する。	＜聞く＞CBT(PC) ＜話す＞CBT(PC) ＜読む＞CBT(PC) ＜書く＞CBT(PC) [試験時間] 2時間14分 4技能すべてコンピュータで実施	＜読む、聞く＞多肢選択 ＜話す＞コンピュータへ録音 ＜書く＞コンピュータで文章を入力
TOEICテスト	テスト、教育、リサーチ等エキスパートを含む2,500名以上のスタッフを擁する世界最大の非営利テスト開発機関ETSによって問題の作成から評価まで行われている。 試験実施前に行われるテスト問題作成スタッフによる複数回の内容レビューおよび試験実施後に行われる統計専門家によるデータ分析・検証により試験の信頼性、妥当性、公平性を担保している。	＜聞く＞ペーパー ＜読む＞ペーパー [試験時間] 2時間	＜聞く＞マークシート方式 ＜読む＞マークシート方式
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	テスト、教育、リサーチ等エキスパートを含む2,500名以上のスタッフを擁する世界最大の非営利テスト開発機関ETSによって問題の作成から評価まで行われている。 試験実施前に行われるテスト問題作成スタッフによる複数回の内容レビューおよび試験実施後に行われる統計専門家によるデータ分析・検証により試験の信頼性、妥当性、公平性を担保している。 Human Raterについては、品質維持のため事前のトレーニングに加え毎回評価を実施する際にも簡単な試験を最初に行い、評価基準が一定に保たれているか確認した上で評価にあたっている。	＜話す＞CBT(PC) ＜書く＞CBT(PC) [試験時間] 1時間20分	＜話す＞コンピュータへ録音 ＜書く＞コンピュータへ文章を入力

評価・フィードバック				
試験名	成績の表示方法 ①点数(スコア) ②グレード/階級/CEFRレベル 等	評価基準	受験者/学校へのフィードバック ①受験者への課題・指導 ②学校へのフィードバック内容	結果再発行/学校からの問い合わせ等 ①再発行 可能/不可能 ②スコア確認等、学校が問い合わせた場合の対応 ③試験結果の有効期限
Cambridge English ケンブリッジ英検	①総合評価スコア<Cambridge Englishスケール(80～230点、1点刻み)>および技能別スコア(80～230点、1点刻み)【2015年1月よりCPE(C2),CAE(C1),FCE(B2)に導入、PET &KETについては8月以降導入予定】 ②(1)3段階で表される合格グレード、(2)CEFRレベル(A2～C2)、(3)(FCE以上の場合)英国資格指標(NQF)のレベル URL: http://www.cambridgeenglish.org/jp/images/183109-page6_certificate.pdf	<読む>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <聞く>記述で答えるパート以外はコンピュータによる採点 <話す・書く>ケンブリッジの評価基準の研修を受けた採点者が評価。ライティングは1名の採点者が1つのタスク(問題)のみ採点する。採点結果をサンプル抽出し必要に応じてシニア採点者がチェックする質管理システム。 <評価基準>評価基準: (例)PET for Schools <書く> http://www.cambridgeenglish.org/images/168143-cambridge-english-preliminary-for-schools-teachers-handbook.pdf (22,27ページに評価基準あり) <話す> http://www.cambridgeenglish.org/images/168143-cambridge-english-preliminary-for-schools-teachers-handbook.pdf (48-52ページに評価基準あり)	①総合評価のほか、各技能毎にスケールスコアで示されるので4技能の中で得意・不得意なもの为抓手、対策の手がかりになる サンプル: First(B2) http://www.cambridgeenglish.org/images/201341-understanding-your-sor-first-for-schools-2015.pdf ②総合評価のほか、各技能毎にスケールスコアで示されるので4技能の中で得意・不得意なもの为抓手、指導の手がかりになる サンプル: 同上	①破損や紛失時、条件により再発行可能。(有償、無償あり) 詳細 http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-qualifications/lost-certificates/ 大学等の申請で必要な場合は、セキュリティの高い試験結果検証サービス(オンライン)をご利用頂くことにより無償で正しい情報を大学と受験者両者に提供 ②問合せ窓口は受験時登録した試験センター。申請の際に受験者IDおよび暗証番号の申告があれば学校や大学はオンラインで直接試験結果の照合確認が可能 ③生涯有効。ただし、高等教育機関は独自に有効期間を定めていることが多いので、確認が必要
実用英語技能検定	①1級から5級(7つの級)で合否による成績表示 ②(2015年度より)合否に加えて英検CSEスコアも併記予定	<読む・聞く> マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く> 採点者が評価基準に基づいて評価 <評価基準> http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/criteria/	①受験者の合否、合格点、合格者平均点、全体平均点、受験者素点、合格点までの差、各問題正誤、分野別正答率、大問別得点、学習アドバイス等を記載し、受験者の現状のレベルを詳細に伝えている http://www.eiken.or.jp/eiken/result/ ②受験者ごとの合否、大問別の得点、過去2回分の受験結果、合格者平均点、全体平均点、受験者素点、合格点までの差、分野別正答数、大問別正答数等を記載し、受験者の現状のレベルを詳細に伝えている ※(2015年度より)合否に加えて英検CSEスコアも併記予定	①合格証書は、紛失による再発行はできないため、合格の証明が必要な方は、別途「合格証明書(有料)」をお申し込みいただく ③留学に活用する目的の場合は、合格証明書発行日から数えて2年間と定める。ただし、留学の使用でなければ、取得した資格は半永久的
GTEC CBT	①トータルスコア 0～1400点 リーディング 0～350点 リスニング 0～350点 スピーキング 0～350点 ライティング 0～350点 ②独自のグレード(1～9)	<読む・聞く> マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く> 2名の採点者が評価基準に基づいて評価	①試験終了後、約4週間後に、マイページの登録住所に郵送にてスコアレポートをお届け ※ホームページのマイページからも、スコア情報を確認可能 スコアレポートではスコア・グレードを技能別に表示。スコアに応じて技能ごとのYour Performanceを表示 スコアレポート見本: http://www.benesse-gtec.com/cbt/about/score.html	①受験日より2年以内であれば再発行可能。各個人が1通1,080円(税込)にてマイページからの申し込み ②大学側から名前・TestID・生年月日の指定があれば、結果スコアを直送可能 ③有効期限は受験日から2年間
GTEC for STUDENTS	①トータルスコア 0～810点 リーディング 0～320点 リスニング 0～320点 (スピーキング 0～170点) ライティング 0～170点 ②独自のグレード(1～7)	<読む・聞く> マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く> 2名の採点者が評価基準に基づいて評価 ※評価基準: ライティングの採点基準については下記URL参照(http://gtec.for-students.jp/product/pro_student.htm#writing)	試験終了後、約4週間後に、生徒スコアレポート・教師用帳票を学校にお届け ①各スキルについてスコアとグレード、および観点別評価。次の学習につながるスキルUPメッセージを記載。スコアレポート見本: http://gtec.for-students.jp/product/pro_student.htm#writing ②スコアに基づき効果的と思われる指導方法について記載 教員用帳票見本: http://gtec.for-students.jp/product/pro_teacher.htm	①スコアレポートに印字されているTest Dateから2年後の同月末まで再発行可能。受験者個人からの再発行依頼はなし。(学校を介して申し込み) ②大学への直送はなし ③有効期限はTest Dateから2年後の同月末まで
IELTS	①総合スコアおよび各技能別スコア(総合も各技能とも1.0～9.0までの0.5刻み。1.0 = Non-user～9.0 = Expert user) ・読む 1.0～9.0点 ・聞く 1.0～9.0点 ・話す 1.0～9.0点 ・書く 1.0～9.0点 ・トータルスコア 1.0～9.0点	<読む・聞く>・研修を受けた採点者による採点 ・各40項目の正解数によってバンドスコアが決定 <話す・書く> 資格を持ち、研修をうけた試験官1～4名により評価基準に基づいて評価 <評価基準> http://www.ielts.org/researchers/score_processing_and_reporting.aspx	①受験者には、4技能別及び総合点のバンドスコアをそれぞれ1.0～9.0でフィードバック ②団体受験の教育機関にはエクセル一覧にて上記情報を成績提供。各機関の要望に応じて、別途分析資料を提供可能な範囲で用意	①再発行は本人の申請により、受験から2年以内であれば何通でも可能 ②教育機関はTRF Verification Serviceに加入することにより、オンラインにてその機関へのスコア提出を希望している受験者成績一覧を一括ダウンロードすることが可能。また、同じシステムを使い、スコアの真偽も確認可能 ③受験日から2年間
TEAP	①各技能別スコア(各技能別とも20-100点) ・読む 20～100点 ・聞く 20～100点 ・話す 20～100点 ・書く 20～100点 ②CEFRレベルによる成績表示	<読む・聞く> マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く> 複数名の採点者が評価基準に基づいて評価 <評価基準: 書く> http://www.eiken.or.jp/teap/construct/rating_crit.html <評価基準: 話す> http://www.eiken.or.jp/teap/construct/sp_rating_crit.html	①4技能別標準化スコア、該当するCEFRレベル、Can-do Statements、分野/タスク別到達度等を記載し、受験者の技能毎の現状のレベルを詳細に伝えている http://www.eiken.or.jp/teap/result/	①スコアレポートの再発行を希望する場合は有償での発行となる ②大学への成績結果提供大学等が当テスト利用型入試を行い、受験者が当該大学等に出願した場合は、大学の要請により受験者の成績結果を提供する ③受験者が取得した成績結果は、当テストを受験した日の属する年度の翌年度末3月31日までを有効期限とし、これを過ぎた成績結果により大学へ出願した場合は無効となる 参照: 「TEAP受験規約」 http://www.eiken.or.jp/teap/apply/pdf/agreement.pdf
TOEFL (TOEFL iBT)	①総合スコア(0～120点)および各技能別スコア(各技能とも0～30点) ・読む 0～30点 ・聞く 0～30点 ・話す 0～30点 ・書く 0～30点 ・トータルスコア 0～120点	<読む・聞く>コンピューターによる自動採点 <話す>複数の採点者が採点基準表に基づいて評価。採点基準は以下URL参照 https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_speaking_rubrics.pdf <書く>採点者とコンピューターによる自動採点。採点基準は以下URL参照 https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_writing_rubrics.pdf	①スコアに応じて3つないし4つのレベルに分けられ、レベル別のアドバイスがETSのウェブサイトもしくはTest Taker Score Reportに記載される(以下参照) http://www.toefl-ibt.jp/toefl_ibt/score_analysis.html ②スコアレポートにはスコアに関する簡単な説明が記載されている(以下参照) https://www.ets.org/toefl/institutions/scores/interpret/	①受験日から2年以内のスコアであれば再発行可能(有料) ②受験者はインターネット・FAX・郵送でETSに再発行手続きを行う Official Score Report: 受験者が申請すると、主催団体ETSから大学へ直接送付される Test Taker Score Report: 受験者が申請すると、ETSから受験者へ送付される 大学はインターネット上もしくは郵送されてきたOfficial Score Reportでスコアを確認する ③受験日から2年間有効
TOEFL Junior Comprehensive	①総合スコアおよび各技能別スコア ・読む 140～160点 ・聞く 140～160点 ・話す 0～16点 ・書く 0～16点 (2016年中に4技能均等配点に移行予定) ②トータルスコア 1～6 (それぞれのスコアを総合的に評価)	<読む/聞く> マークシート方式で回答、コンピュータによる採点。 <話す/書く> Online Network for Evaluation (ONE)に基づき、所定のトレーニングを終了した複数の査定員(レイター)によって採点。レイター間で誤差が発生した場合には、別途レイターを追加。Scoring Leaders, Content Scoreing Leaddersなどにより常に査定の基準がチェックされ、評価基準にブレがなく公平な評価が行われる。	①4技能それぞれのスコアとそれぞれのスコアで何が出来るかを表示。またそれぞれのスコアに対応するCEFRレベルを表示。さらに、Readingについては、Lexile 指数(読書能力と本の難易度を200L～1700Lの数値で表示)にて受験者に合った英語の書籍を専用サイトから見つけることが出来る。(総合的な英語運用能力についても1～6のレベルで、またそのレベルで何が出来るかを表示することができる)	①本人からの申請に基づき、受験から2年以内であれば再発行可能 ②本人からの申請に基づく弊社から学校へのスコア直送制度についても準備中 ③試験結果の有効期限は受験から2年以内
TOEICテスト	①総合スコアおよび各技能別スコア ・リスニングスコア5～495点 ・リーディングスコア5～495点 ・トータルスコア10～990点	<読む・聞く> マークシートに基づきコンピュータによる採点。常に評価基準を一定に保つためにスコアの同一化(Equating)と呼ばれる統計処理を行い算出	①(公開テスト・団体特別受験制度<IPテスト>共通): セクション別スコアおよびトータルスコアを表示。また、「Percentile Rank」「Score Descriptors(レベル別評価)」「Abilities Measured(項目別正答率)」の3つの評価も表示 ②(団体特別受験制度のみ): 団体ご担当者にスコアロースター(成績一覧表)を提供。	<公開テスト> 受験者からの依頼により試験日より2年以内の申請で再発行可能。 <IPテスト> 団体担当者からの依頼により解答用紙を採点した年度および翌年度4月1日から2年間の申請で再発行可能。
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	①各技能別スコア ・スピーキングスコア 0～200点 ・ライティングスコア 0～200点	<話す・書く> ルーブリックに基づき、採点の訓練を受けた複数の評価者が採点。ETSの統計の専門家がすべての採点結果を分析・検証。 評価基準: http://www.toEIC.or.jp/library/toEIC_data/sw/sampletest/pdf/sw_handbook.pdf	①(公開テスト・団体特別受験制度<IPテスト>共通): 公開テストの受験者には公式認定証を送付。IPテストの受験者にはスコアレポート(個人成績表)を発行。スコア表示に加え、スコアをもとにした評価がProficiency Level Descriptors(能力レベル別評価)も表示。さらに、スピーキングテストにおいては、Pronunciation(発音)、Intonation(イントネーション)とStress(アクセント)についての評価もそれぞれ3段階で表示。 ②(団体特別受験制度のみ): 団体ご担当者にスコアロースター(成績一覧表)を提供。	<公開テスト> 受験者からの依頼により試験日より2年以内の申請で再発行可能。 <IPテスト> 団体担当者からの依頼により解答用紙を採点した年度および翌年度4月1日から2年間の申請で再発行可能。

試験名	調査・研究・その他		
	CEFRとの関係に関する研究 等	基準集団	ホームページのURL
Cambridge English ケンブリッジ英検	Cambridge English(ケンブリッジ英検)はCEFRと共に開発（部分的にはあるが、CEFRはCambridge Englishをベースに設計された経緯あり） 参照HP: http://www.cambridgeenglish.org/research-and-validation/fitness-for-purpose/	CambridgeEnglishとCEFRに関する研究・開発の過程で2001年にアイテムバンクを導入、その際は過去20年間分の受験者1,500万人分のデータを分析活用。 http://www.cambridgeenglish.org/images/126011-using-cefr-principles-of-good-practice.pdf （Section 3: Applying the CEFR in practice） CEFRとの関係:開発者の一人であるブライアン・ノース博士の検証作業プロセスに関するコメント:「(中略)CEF(ヨーロッパ共通参照枠)のレベルとケンブリッジ英検各試験のレベルの間に関連があるため、例外とされます」	www.cambridgeenglish.org/jp/ （日本語） www.cambridgeenglish.org/ （英語）
実用英語技能検定	・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法(*1) ②Modified Angoff法(*2)を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,iBT等)との比較 http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/	延べ20,000人を超える1級から5級の合格者(合格直後)に対し、数回に渡る大規模アンケート調査を実施	https://www.eiken.or.jp/eiken/
GTEC CBT	実際のGTEC CBT受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証。※科学研究費補助金 基盤研究(A)「学習者コーパスによる英語CEFRレベル基準特性の特定と活用に関する総合的研究」における「CEFR-J研究開発チーム」の“CEFR-J”デスクリプタを用いて関連づけ調査を実施	大学生を中心に約1,000名程度を調査対象として実施。調査にあたっては、対象者全員がGTEC CBTを受検した上で左記アンケートに回答	http://www.benesse-gtec.com/cbt/
GTEC for STUDENTS	GTEC for STUDENTSとGTEC CBTのスコアの関連性を前提とし、上記研究内容と結び付けることにより検証。	GTEC CBTに準じる	http://gtec.for-students.jp/
IELTS	ケンブリッジ大学英語検定機構によるCEFR共同開発時のデータをもとにマッピング。テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証 (参照1): “IELTS, Cambridge ESOL examinations and the Common European Framework” written by Lynda Taylor : http://www.cambridgeenglish.org/images/23135-research-notes-18.pdf （参照2）: http://www.ielts.org/researchers/common_european_framework.aspx	1998年から継続的に様々な検証研究が行われている。IELTSのケンブリッジ英検との比較、IELTS受験者を対象に行うCan DO responseの研究などがある	http://www.eiken.or.jp/ielts/
TEAP	・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(GRELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,iBT等)との比較 http://www.eiken.or.jp/teap/group/report.html	数百名を超える高校生・大学1年生を対象に、大規模アンケート調査を実施	http://www.eiken.or.jp/teap/
TOEFL (TOEFL iBT)	・ETSによる調査「Linking English-Language Test Scores Onto Common European Frame of Reference」 http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RR-08-34.pdf （CEFRに関する補足リサーチレポートは3-4月中にETSウェブサイトに掲載予定） ・ETSにおけるTOEFLに関するリサーチ https://www.ets.org/toefl/research ・TOEFL iBTとCEFRのスコアマッピング https://www.ets.org/toefl/institutions/scores/compare/	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・5,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用	ETSウェブサイト: http://www.ets.org/jp/toefl CIEEウェブサイト: http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html 学校・教育機関向けサイト: http://www.toefl-ibt.jp/
TOEFL Junior Comprehensive	・Modified Angoff 法(*2)を使用。TOEFL Junior Standard(2技能試験)のマッピングスタディとTOEFL Junior Comprehensiveのマッピングスタディおよびそれぞれのスタディの調整研究を実施 ・15か国、18名の有識者による検討 参照HP: http://www.ets.org/toefl_junior/scores_research/standard/cefr/ http://www.etsglobal.org/content/download/14736/245545/version/1/file/TOEFL++Junior%C2%AE++Comprehensive++CEFR+Mapping%E2%80%93MAR271-LR+(1).pdf	・TOEFL Junior Standard: 世界各国から8,529人 ・TOEFL Junior Comprehensives(TOEFL Junior Standardとの調整スタディを含む): 世界各国から1,000人	http://gc-t.jp
TOEICテスト	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 参照HP: http://www.ets.org/s/toEIC/pdf/toEIC_cef_mapping_flyer.pdf	100,000名以上のテスト受験者データを使用	http://www.toEIC.or.jp/
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 参照HP: http://www.ets.org/s/toEIC/pdf/toEIC_cef_mapping_flyer.pdf	TOEIC S&Wテスト受験者データを使用	http://www.toEIC.or.jp/

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験に関する連絡協議会決定（平成27年3月17日）

1. 基本的な考え方

グローバル化に対応して学習者が生涯にわたり主体的に英語学習に取り組む環境づくりとして、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を初等中等教育から高等教育を通じてバランスよく育成するとともに、総合的に評価することが重要。

このような観点を踏まえ、本協議会において、4技能を測る試験の活用の在り方、有効性及び留意点について指針を策定し、各学校・団体において、学校の授業における英語力評価及び入学者選抜における試験の活用を促進。

2. 資格・検定試験の活用促進において重視すべき事項(例)

(1) 資格・検定試験の有効性を踏まえた活用促進

【学校】

○生徒学生の英語力の把握、指導改善、学習意欲の向上などにつなげる

〈資格・検定試験の有効性に関する観点(例)〉

- ・4技能の測定、目的等を踏まえた継続学習などにおける一貫性、学習への動機付け、学校における教員の指導改善、生徒・教員の英語力向上の指針として活用 等

○授業では、学習指導要領との親和性を踏まえつつ、学習評価や定期試験等に加え、一つの客観的指標として効果的に活用

○アドミッション・ポリシー等を踏まえた入学者選抜等における活用

【資格・検定試験団体】

○試験の有効性、試験を活用する先進的取組などの情報を積極的に発信

(2) 英語力評価における試験の妥当性等を踏まえた資格・検定試験の活用促進

【学校】

○資格・検定試験の妥当性・信頼性等に留意し具体的な活用方法等を明確化

【資格・検定試験団体】

○試験の妥当性等を検討するに当たり必要な情報を発信

(例) 試験の目的、出題意図、難易度、目標言語使用領域、作成過程、実施方法、試験結果の評価基準、採点手続き、結果の利用方法、測定しようとする能力の明確化、基準集団、検証状況 等(参考1)

○試験のスコアの考え方や世界的な参照基準(参考2)との関係付け等を変更する場合は適時適切に情報提供。連絡協議会として、毎年度末を目途に必要な情報を更新

(3) 多様な生徒学生の能力に適合した資格・検定試験の活用促進

【学校】

○生徒学生の英語力・目的を踏まえた英語力の目標設定、資格・検定試験の活用、結果の分析をきめ細かな指導改善、生徒学生の学習意欲の向上に繋げる(参考3)

○授業活用の際、資格・検定試験の結果は生徒の英語力、教育活動の一側面に関するものであることに留意して効果的に活用

【資格・検定試験団体】

○測定される能力の明確化や、受験環境・実施場所・時期、受験費用など積極的に情報提供

(4)入学者選抜における妥当な資格・検定試験の活用促進

【学校】

○活用にあたり、具体的な方法、意図等を明確にして情報発信

- ・ 資格・検定試験の結果を用いる場合、出願要件、みなし満点、点数加算等について、その趣旨等とともに明確化（参考4）

【資格・検定試験団体】

○試験結果の確認方法、試験間の換算や比較に関する情報提供、世界的な参照基準を活用したレベル、グレード、スコア（点数）に関する情報提供 等

(5)生徒学生が受験しやすくするための配慮を行う

【学校】

- 学校は多様な試験を精査し、その学校において習得されることが期待されている英語力を測定するのに適切なものを選択。また生徒学生に正確な情報を提供
- 学校の二ーズや生徒学生の受験機会の状況を踏まえつつ、公平性・公正性を保った上で、受験しやすいよう学校施設等を提供して実施

【資格・検定試験団体】

- 学校、関係団体が試験を行うにあたり、受験のしやすさ（経済的状況に配慮した受験料、地域バランスに配慮した実施体制、受験回数等）に可能な限り配慮
特に、生徒学生に対し受験料の減額・補助・助成など支援体制等

(6)適正・公正な試験実施体制(試験監督、情報管理等)の確保

【資格・検定試験団体】

- 試験実施体制、受験手続き（本人確認、不正行為の防止策を含む）等について分かりやすく公開。また、学校関係者との間で共通理解を図る
- 公正性の観点から、試験と教育部門を有する団体は部門間の情報管理を行う

(7)国際的な通用性に配慮した資格・検定試験の活用促進

【学校】

- 生徒学生の進路・留学等の二ーズに応じて試験団体が公表する情報に基づき適切な試験を活用

【資格・検定試験団体】

- 留学の際に活用できる海外学校等における活用状況、受験者数など試験の国際通用性に関する情報を積極的に提供

〈例〉留学に活用できる大学等、海外での利用状況、主な地域、海外の試験団体との連携状況 等

(8)その他

- 行動指針の趣旨等について、学校関係団体は、参加校、生徒学生への周知。資格・検定試験団体は学校団体等に周知。
- 本協議会は、英語力評価及び入学者選抜の改善に向け、引き続き協議を行うとともに、4技能試験の活用に係る情報提供、英語試験問題の調査・分析等について継続して協力

(参考 1) 主な英語の資格・検定試験

試験名	実施団体	受験人数	年間実施回数	成績表示方法	出題形式: 実施方式 (*1)	受験料
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	ケンブリッジ大学 英語検定機構	国内人数非公開 ※全世界では約250万人	2-3回	上初級〜特上級(5つ) 可否、スコア(80-230)、グレード	L, R, W: 紙 S: ペア面接	PET(B1) 11,880円〜 KET(A2) 9,720円〜 (*5)
実用英語技能検定	日本英語検定協会	約235.5万人 (H25実績)	3回	1級〜5級 可否による表示 H27よりスコア併記予定	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進学基準研究機構(CEES)と共催	非公表	3回 (H27)	0-1400点	L, S, R, W: CBT	9,720円
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	約73万人 (H26実績)	2回	0-810点	L, R, W: 紙 (S): タブレット(*3)	3,080円 L, R, W (5,040円 L, R, W, S)
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定機構 日本英語検定協会 等 ※全世界では240万人	約3万人 (H26実績)	約35回	1.0-9.0 (0.5刻み)	L, R, W: 紙 S: 面接	25,380円
TEAP	日本英語検定協会	約1万人 (H26実績)	3回	80-400点	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	15,000円
TOEFL iBT	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	非公表	40-45回	0-120点 (4技能を各0-30点で評価)	L, S, R, W: CBT	230USDドル
TOEFL Junior Comprehensive	テスト作成: ETS 日本事務局: GC&T	非公表	2-3回	0-352点	L, S, R, W: CBT	9,500円
TOEIC	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC ※TOEICプログラム全世界700万人	約236.1万人 (H25実績)	10回	10-990点 (L, R各5-495点)	L, R: 紙	5,725円
TOEIC S&W	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC ※TOEICプログラム全世界700万人	約1.5万人 (H25 実績)	24回	0-400点 (S, W各0-200点)	S, W: CBT	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing *2: Wは1級・準1級、Sは3級以上 *3: Sはオプション *4: L/R, L/R/Wでも受験可能
*5: 実施試験センターにより異なることあり

(参考 1) 主な英語の資格・検定試験の出題意図・語彙数 等

試験名	目的・出題意図	語彙数	国際通用性 ①実施国数 ②主な活用地域 ③海外団体との連携
Cambridge English (PET:CEFR B1)	英語圏における日常生活に必要なとされる実践的な英語力があるかを評価する	3,000語程度 (*1)	①約130カ国 ②英国、欧州、オーストラリア、ニュージーランド ③CaMLA(米国ミシガン大学)、OET(豪州)等
実用英語技能検定 (2級: CEFR B1)	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	4,000語程度 (*2)	①約50カ国 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等 ③アジア6地域7団体およびCRELLA(英国)
GTEC CBT	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	3,000〜6,000語程度 (CEFR C1まで)	②北米(ELS Educational Services)
GTEC for STUDENTS	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	3,000語以下 ※タイプによって異なる (CEFRB2まで)	
IELTS	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	5,000〜6,000語程度(*2)	①約140ヶ国以上 ②EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ等
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	2,000〜5,000語程度 (タスクにより異なる) (*2)	③CRELLA(英国)
TOEFL iBT	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	(R) 3,000語で90.45%をカバー 5,000語で95.37%をカバー (L) 3,000語で96.22%をカバー(*3)	①約130か国以上 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)、非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)
TOEFL Junior Comprehensive	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する。	3,000語程度 98%の単語がセンター試験に出現(*4)	①8か国(実施国数拡大中、2技能については既に50か国以上)
TOEIC / TOEIC S&W	和文・英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションができるかということを評価する。	4,000語以上 (*5)	①約150か国

*1: English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウントした概算 *2: BNC(British National Corpus) *3: BNC/COCA word-family lists <第1回連絡協議会資料より> *4: 2006年以降のセンター試験。グローバル・コミュニケーション&テストティング独自調査(2014年)
*5: 外務リサーチャーが独自に行った調査結果「英検2級より多いがテレビ、ニュース番組よりは少ない」からの推計値

(参考1) 主な英語の資格・検定試験の C E F R との関係性検証方法

試験名	C E F R 検証方法	補足事項
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	・CEFRと共に開発（部分的にはあるが、CEFRはCambridge Englishをベースに設計された経緯あり）	・2015年より、Cambridge Englishスケール(スコア化)を導入
実用英語技能検定	・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法(*1) ②Modified Angoff法(*2)を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,iBT等)との比較	・スコア化(英検CSEスコア)導入 (CEFRとの対応付け、およびIRTを用いた各級の関係性よりスコア化)
GTEC CBT	・実際のGTEC CBT受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証 ※科学研究費補助金 基盤研究(A)における「CEFR-J研究開発チーム」の“CEFR-J”デ スクリプタを用いて関連づけ調査を実施	
GTEC for STUDENTS	・GTEC for STUDENTSとGTEC CBTのスコアの関連性を前提とし、上記研究内容と結 び付けることにより検証。	
IELTS	・有識者によるベンチマーキング ・テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証	
TEAP	・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(CRELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,iBT等)との比較	
TOEFL iBT	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・5,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用	
TOEFL Junior Comprehensive	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・15か国18名の有識者による検討、2技能テストのスタディとの検証も実施	
TOEIC / TOEIC S&W	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討、100,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用	

*1: Basket法 「(問題に対して)CEFRのどのレベルにある受験者であればこの問題に正解できますか?」という分析手法

*2: Modified Angoff法 「(問題に対して)CEFRの各レベルに相当する受験者が100人いるとして、何名がこの問題に正解できるか?」という分析手法

(参考2) 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられるなどしている。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>

http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>

<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より

TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>

「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

（参考3）生徒の英語力に関する目標設定について

◆ 第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）（抜粋）

成果目標5（社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成）

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材，社会の各分野を牽引するリーダー，グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材，とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上，海外留学生数の飛躍的な増加，世界水準の教育研究拠点の倍増などをを目指す。

※能力の例：国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性，チャレンジ精神，異文化理解，日本人としてのアイデンティティ，創造性など

【成果指標】

＜グローバル人材関係＞

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上，高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

②英語教員に求められる英語力の目標（英検準1級，TOEFL iBT 80点，TOEIC 730点程度以上）を達成した英語教員の割合（中学校：50%，高等学校：75%）

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について（H26年9月26日：英語教育の在り方に関する有識者会議）報告（抜粋）

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月14日閣議決定）において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。これまでに設定されている英語力の目標だけでなく、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT 60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

(参考4) 英語4技能資格・検定試験の活用事例

◇生徒・学生の英語力向上における活用例

<高校の例>

> ○○高等学校

コミュニケーション活動を重視した授業において、英検の過去問題を活用。生徒の意欲を引き出す。受験前には、英語科教員とALTで面接指導も実施。

> ○○高等学校

スピーチコンテストや短期留学等の取組を進める中で、英語力向上の目標として資格・検定試験を活用

<大学の例>

> スーパーグローバル大学等事業 採択大学

入学時から卒業時における目標を設定し、定期的にTOEFL等の試験を受け、卒業時には、実践的なコミュニケーションが可能なグローバル人材を育成

> ○○大学

大学で学習する際に必要とされる英語運用能力を正確に測定するテストを導入し、基準点を設け、入学時選抜の際にすると共に、入学後の習熟度別クラス編成にも活用することで、英語力向上のためのきめ細かな指導を実施

◇入試における換算方法等（例：出願要件、みなし満点、点数加算等）の例

<いわゆる「みなし満点」>

> ○○大学（一般入試）

TOEFL iBT71点以上

TOEFL PBT530点以上

英検準1級

IELTS 4技能6.5以上のスコアまたは等級を所持している者については、大学入試センター試験の英語科目を満点とし換算して、可否判定を行う

<出願要件の一部、英語試験免除>

> ○○大学

【自己推薦入試等：免除】

TOEFL68点以上（経済、商学関係）

【英語運用能力特別試験：出願要件】

TOEFL68点以上

（法学・政治学、国際関係）

> ○○大学（一般入試）

英検2級以上：英語学力試験を免除

<点数加算の例>

> ○○大学

TOEFL48点以上 5点

61点以上 10点

79点以上 25点

100点以上 50点

> ○○大学

英検2級以上 10点

英検準2級 8点

英検3級 6点

> ○○高等学校

推薦入試において英検3級以上で加算

<高校入試の例>

> 大阪府における取組

入学時選抜においてTOEFL iBT、IELTS、英検のスコア等を一定の得点に換算し、学力検査の英語の得点と比較して高い方の得点を学力検査の得点とする（平成29年度より開始）

連絡協議会設置要綱

英語力評価及び入学時選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会の設置について

平成26年11月25日
初等中等教育局長決定
高等教育局長決定

1 趣旨

生涯にわたる英語学習を通じた英語力向上のため、「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能（以下、4技能という。）の評価及び入学時選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について検討・協議を行う、学校関係者、専門家、英語の資格・検定団体、経済団体等からなる「英語力評価及び入学時選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」（以下、「連絡協議会」という。）を設置する。

2 役割

- ・学校等における英語力評価及び入学時選抜における英語の資格・検定試験の活用の在り方について調査し、検討・協議を行うこと。
- ・学校等における英語力評価及び入学時選抜における英語の資格・検定試験の活用について関係団体間の必要な申合せを行うこと。
- ・学校等における英語力評価及び入学時選抜における英語の資格・検定試験の活用に関し、関係団体等と必要な調整を行うこと。
- ・その他、上記に関係する事項を取り扱うこと。

3 検討事項

英語力評価及び入学時選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関し、次の事項を検討する。

- ・英語の4技能の評価及び入学時選抜における改善の方策
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する適切かつ効果的な情報提供の在り方
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する指針の検討・策定
- ・その他、上記の実施に当たり必要な事項

4 作業部会

連絡協議会には、専門事項を調査・検討するため、作業部会を置くことができる。

5 任期

平成26年11月25日～平成27年3月31日とする。

6 その他

- ・本会議に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において、高等教育局大学振興課の協力を得て処理する。
- ・その他会議の運営に関する事項は、必要に応じて座長に諮って定める。

連絡協議会設置要綱

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する連絡協議会委員

【50音順】
○ …座長

青山 智恵 ケンブリッジ大学英語検定機構日本支部長
荒井 克弘 独立行政法人大学入試センター試験・研究統括官
安藤 益代 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
(IIBC) IP事業本部長
石鍋 浩 足立区立蒲原中学校校長
梅澤 直臣 株式会社グローバル・コミュニケーション&テストイン
グ取締役
圓月 勝博 同志社大学文学部教授・学部長、
一般社団法人日本私立大学連盟教育研究委員会委員
大塚 雄作 独立行政法人大学入試センター試験・研究統括官
奥田 吾朗 大阪国際大学短期大学部理事長、
日本私立短期大学協会副会長
尾関 直子 明治大学国際日本学部教授
清原 正義 公立大学法人兵庫県立大学理事長兼学長、
一般社団法人公立大学協会副会長
日下部 治 独立行政法人国立高等専門学校機構
茨城工業高等専門学校校長
塩崎 修健 公益財団法人日本英語検定協会教育事業部部長代理
島村 元紹 島村楽器株式会社代表取締役会長、
日本商工会議所教育専門委員長
新庄 恵子 港区立高陵中学校校長、全日本中学校長会事業部長
高橋 基之 東京都立目黒高等学校校長、全国高等学校長協会会長

○ 多田 幸雄 株式会社双日総合研究所代表取締役社長
長崎大学経済学部客員教授
田原 正夫 公立大学法人首都大学東京 東京都立産業技術高等専門
学校校長、全国公立高等専門学校協会会長
内藤 裕紀 株式会社ドリコム代表取締役社長、
一般社団法人新経済連盟教育改革PTリーダー
中村 慶久 岩手県立大学盛岡短期大学部学長、
全国公立短期大学協会副会長
根本 斉 国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部TOEFL事業部長
平方 邦行 工学院大学附属中学校・高等学校校長、
日本私立中学高等学校連合会常任理事
松本 茂 立教大学グローバル教育センター長
三木谷 浩史 楽天株式会社代表取締役会長兼社長
三島 良直 国立大学法人東京工業大学学長、
一般社団法人国立大学協会入試委員会委員
三宅 龍哉 富士通株式会社常務理事、
一般社団法人日本経済団体連合会教育問題委員会企画
部会長
村田 圭治 近畿大学工業高等専門学校校長、
日本私立高等専門学校協会理事
安河内 哲也 一般財団法人実用英語推進機構代表理事
山崎 昌樹 株式会社ベネッセコーポレーション学校本部長
吉田 研作 上智大学言語教育研究センター教授
四方 ゆかり グラクソ・スミスクライン株式会社 取締役、
公益社団法人経済同友会幹事・学校と経営者の交流活動
推進委員会副委員長

＜オブザーバー＞

初等中等教育局 高校教育改革PT
初等中等教育局 児童生徒課
初等中等教育局 国際教育課
高等教育局 高等教育企画課
高等教育局 大学振興課
高等教育局 専門教育課

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の 活用促進に関する作業部会 設置要項

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する作業部会の設置について

平成26年12月2日
英語力評価及び入学者選抜における英語の
資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会

1. 趣旨

「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能(以下、4技能という。)の評価及び
入学者選抜の改善及び英語の資格・検定試験の活用の在り方について、
専門的・技術的見地から調査・検討を行うため、英語力評価及び入学者
選抜における資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会(以下、
「連絡協議会」という。)の下に作業部会を設置する。

2. 役割

学校等における英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検
定試験の活用の在り方について専門的・技術的見地から調査し、検討を
行うこと。
その他、上記に関係する事項を取り扱うこと。

3. 検討事項

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促
進に関し、次の事項の調査・検討を行い、連絡協議会での検討を補完す
るものとする。

- ・英語の4技能の評価及び入学者選抜における改善の方策
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する適切かつ効果的な情報
提供の在り方
- ・英語の4技能を測定する資格・試験に関する指針の検討・策定
- ・その他、上記の実施に当たり必要な事項

4. 会議の運営

会議は、委員自らの識見に基づく専門的な審議及び率直かつ自由闊
達な意見交換の場を確保する必要があること、また、審議内容に個別利
害に直結する事項に係る案件を含むことから、非公開で行い、検討結果
を連絡協議会に報告する。

5. 設置期間

平成26年12月2日～平成27年3月31日とする。

6. その他

- ・本会議に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において、高等
教育局大学振興課の協力を得て処理する。
- ・その他会議の運営に関する事項は、必要に応じて主査に諮って定め
る。

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する作業部会 設置要項

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の
活用促進に関する作業部会委員

【50音順】
◎ ……主査

青山 智恵	ケンブリッジ大学英語検定機構日本支部長	仲村 圭太	公益財団法人日本英語検定協会制作部研究開発課主任
石田 毅	サレジオ工業高等専門学校一般教育科長	永井 誠	公立大学法人首都大学東京東京都立産業技術高等専門学校教授
石橋 敬太郎	岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科長	根岸 雅史	国立大学法人東京外国語大学
梅澤 直臣	株式会社グローバル・コミュニケーション&テストイング取締役		大学院総合国際学研究院教授
大津 起夫	独立行政法人大学入試センター研究開発部長	根本 斉	国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部TOEFL事業部長
大塚 雄作	独立行政法人大学入試センター試験・研究副統括官	浜野 能男	普連土学園中学校・高等学校校長
沖 清豪	早稲田大学文学学術院教授、一般社団法人日本私立大学連盟教育研究委員会委員	福井 正仁	港区立青山中学校校長、 全日本中学校長会教育研究部副部長
小田切 陽一	公立大学法人山梨県立大学理事	松本 茂	立教大学グローバル教育センター長
川嶋 太津夫	国立大学法人大阪大学未来戦略機構教授、一般社団法人国立大学協会入試委員会専門委員	三橋 峰夫	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）R&D主席研究員
日下部 治	独立行政法人国立高等専門学校機構茨城工業高等専門学校校長	森 博英	日本大学経済学部教授
黒岩 裕	青山学院女子短期大学現代教養学科教授・国際専攻主任	安河内 哲也	一般財団法人実用英語推進機構代表理事
小林 真記	神田外語大学外国語学部英米語学科准教授	◎吉田 研作	上智大学言語教育研究センター教授
込山 智之	株式会社ベネッセコーポレーション高校事業部GTEC事業推進課長	＜オブザーバー＞	
佐々木 正文	東京都立町田高等学校校長、全国高等学校長協会監事	文部科学省	
竹内 理	関西大学外国語学部教授・学部長	初等中等教育局 高校教育改革PT	
		初等中等教育局 児童生徒課	
		初等中等教育局 国際教育課	
		高等教育局 高等教育企画課	
		高等教育局 大学振興課	
		高等教育局 専門教育課	

OPEN

“新たな英語教育”にむけ 「英語4技能試験情報サイト」開設!

社会・経済のグローバル化が急速に進展し、さまざまな分野で英語力が求められる時代です。総合的な英語コミュニケーションに必要な「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を育成することをめざし、教育再生実行会議や文部科学省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」の「グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言」において、英語の資格・検定試験の活用が提案されました。本懇談会はこの動きを受け関連団体が集まり発足し、活用促進と課題取り組みの情報発信の場として、情報サイトを開設致します。

英語教育関連
情報のほか、
資格・検定試験の
活用事例を紹介

情報サイトには、英語教育や国際的に活躍する方のスペシャルインタビューや、大学・短大・高専・高校・中学の取り組み、活用事例を掲載しています。



英語4技能試験 情報サイト

NEW 最新記事

スペシャルインタビュー

大学入学者選抜制度 先進的な取り組み事例

NEW 最新事例

スーパーグローバル大学/ハイスクール 導入事例

スペシャルインタビュー

これからの世界に必要なのは異文化への理解。子供たちの意識は既に国境を越えています。

多田幸雄さん (株式会社 双日総合研究所 代表取締役社長)

▶ 詳細はこちら

文部科学省 英語教育 関連情報	資格・検定試験 関連情報	大学入学者選抜および 授業等における事例紹介	資格・検定試験一覧
- 新たな英語教育のための背景と改革 - 入試者選抜改革における英語4技能の評価 - 英語教育関連 - 入学者選抜(入試)改革関連 - スーパーグローバル大学関連 - スーパーグローバルハイスクール(SGH)関連	- 資格・検定試験比較一覧表 - 資格・検定試験CEFRとの対照表 - CEFRについて - 資格・検定試験の特徴 - Cambridge Englishの特徴 - 英検(実用英語技能検定)の特徴 - GTEC CBTの特徴 - GTEC for STUDENTSの特徴	- スペシャルインタビュー - 大学入学者選抜制度 先進的な取り組み事例 - スーパーグローバル大学/ハイスクール導入事例 - 授業等活用事例 - 入学者選抜における活用 - 授業における活用 - 教員採用試験	- Cambridge English - 英検 実用英語技能検定 - GTEC CBT - GTEC for STUDENTS - IELTS - TEAP

コンテンツは随時更新予定。下記URLよりアクセスを!

▶▶▶ <http://4skills.eiken.or.jp> ◀◀◀

Cambridge English

英検 実用英語技能検定
後援: 文部科学省

GTEC CBT

GTEC for STUDENTS

IELTS™

TEAP
Test of English for Academic Purposes

ETS TOEFL iBT

ETS TOEFL Junior
COMPREHENSIVE

ETS TOEIC

お問い合わせ ▶

公益財団法人 日本英語検定協会 広報マーケティング室 広報課
担当者: 高橋

TEL.

03-3266-6840

e-mail.

kouhou21@eiken.or.jp